新潟大学皮膚科特別セミナー

日時：2026年11月4日（水）18：00～

＊Zoomにて開催します。

皮膚を起点とする神経免疫研究
～留学で広がった研究の視点～

京都大学医学部附属病院皮膚科

助教 渋谷 倫太郎先生

皮膚は免疫臓器であると同時に、感覚神経・自律神経による豊富な支配を受ける。近年、皮膚を起点とする神経入力が局所炎症のみならず、遠隔臓器の免疫応答にも影響することが明らかになりつつある。本講演では、留学中に取り組んだ迷走神経耳介枝を介する皮膚感覚入力による肺アレルギー炎症制御を中心に、皮膚から全身へ広がる神経免疫研究と、留学を通して得た研究の視点について紹介する。

1. Shibuya R, et al. CCL2–CCR2 Signaling in the Skin Drives Surfactant-Induced Irritant Contact Dermatitis through IL-1β–Mediated Neutrophil Accumulation. J Invest Dermatol. 2022;142(3 Pt A):571-582.e9. doi:10.1016/j.jid.2021.07.182.

2. Shibuya R, et al. Activation of the auricular vagus nerve reflex suppresses airway inflammation. Immunity. 2026;59(9):2402-2412.e6. doi:10.1016/j.immuni.2026.06.005.